

令和5年11月13日(月)

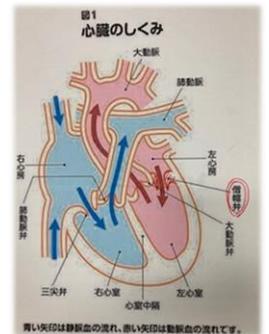
校長室より(106)



こんにちは。

お久しぶりです。10月27日の土曜参観日以来の出勤(登校)になりました。「校長室より(105)」の最後にも書きましたが、身体の修理をするために10日間(10/31~11/9)ほど入院していました。

私の病気は、「僧帽弁閉鎖不全症」という名前です。身体の真ん中にある「心臓」という大事な部分が壊れていて、本来の働きの半分くらいしかしていませんでした。ということが、夏の健康診断のあとの精密検査でわかりました。



病院の先生から、「中村さんのこの病気は、①手術しない限り治りません。②でも、手術をすれば必ず治ります。③手術は、一時的に心臓を止めますが、最新のロボットを使って行うのであつという間に終わります。④1週間後には退院できて、そのあと数日で学校に戻れます。」と言われたので、思い切って学校をお休みして手術をすることにしました。

手術は、11月2日の16:30ころから始まって、19:00前には終わりました。といっても、私は全身麻酔で眠っていたので、気が付いたら終わっていました。最初は、身体中(口、鼻、頸、腕、胸、尿など)が管で繋がられていて、全く自由がないまま一晩を過ごしました。夜が明けて、痛みなどはありませんでしたが、身体に力が入らなくて、しばらくだるい感覚が続きました。それでも、その日のお昼から食事までできるようになり、それ



からは管もどンドン抜かれて、少しずつ自由の身になっていきました。ただ、一時的とはいえ心臓を止めて手術をしたことで、体力が完全になくなっていて、手術後2日間くらいは、10メートルくらい歩いただけで、心臓の鼓動が、胸を見てもわかるのではないかと思うくらいに「ドキドキ」「バクバク」しました。手術からそのまま2日間は、ICU(集中治療室)という部屋にいました。担当の看護師さんが、私の身体の様子をモニター(監視)しながら、身の回りの世話(採血、体温・血圧・血糖値の測定、トイレの付き添い、食事の運搬、身体の拭き取りなどなんでも)してくれました。そのあとは、一般病棟で3日間過ごしました。一般病棟に戻ってからは、元気だったので退院後の生活に備えて、リハビリ(ストレッチ運動、徒歩、自転車こぎ)をして過ごしました。そのおかげで、体力もだいぶ回復しました。11月8日の朝の回診(担当の先生の診察)のとき、「もう退院しても大丈夫ですね。」というお墨付きをもらったので、その日の夕方に退院してきました。



長いようで短い9日間の入院生活でしたが、「健康の大切さ」「当たり前前のことができる幸せ」、そして何よりも「病院で働く方々の仕事の大変さ」を感じた日々になりました。病院には、お医者さんや看護師さんだけではなく、血液やレントゲンや超音波の検査をする人、食事を作る人・運ぶ人、ゴミを集めたりトイレの掃除をしたりする人、書類を作ったりお金の計算をしたりする人など、たくさんの方が働いています。そんなことは、わかっているつもりでしたが、実際に入院してみて、その仕事についてよくわかるとともに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。お世話になった方々、ありがとうございました。



退院直後のコーラの味は、一生忘れません。